

広島市の集団食中毒検査状況(平成 27 年度)

生 物 科 学 部

は じ め に

平成 27 年度の主要な集団食中毒の検査状況について報告する。

方 法

本市保健所で採取し、当部に搬入された患者便、従事者便、食品、器具等の拭き取り検体(スワブ)などを細菌及びウイルス検査に供試した。

結 果

平成 27 年度に本市保健所で調査集計した食中毒事例のうち、当部で検査を実施した集団食中毒の検査概要について表にまとめた。

謝 辞

集団食中毒事件の調査概要を提供いただいた本市保健所食品保健課に深謝いたします。

表 平成 27 年度の広島市における集団食中毒の概要及び病因物質 その 1

発生月	原因施設	患者/ 喫食者	病因物質 原因食品	潜伏時間及び主な症状 当部で行った検査
4月	家庭	2/2	動物性自然毒(フグ毒) コモンフグ(疑)の筋肉	4.0 時間、手のしびれ、唇のしびれ、足のふらつき 遺伝子解析によるフグ種の同定試験を実施。フグ 6 検体すべてコモンフグと推定。 筋肉部 140MU/g、ひれから 87MU/g のテトロドトキシンを検出。(生活科学部と共同実施)
4月	飲食店	3/4	<i>Campylobacter coli</i> <i>Salmonella</i> Schwarzengrund 不明 (4 月 24 日提供のコース料理)	78.0 時間、下痢、発熱、腹痛 患者菌株 2 株、従事者便 3 検体、食品 2 検体、スワブ 8 検体を検査。患者菌株 2 株中の 1 株は <i>C. coli</i> 、1 株は <i>Salmonella</i> Schwarzengrund と同定。食品 2 検体中の 1 検体から <i>S. Schwarzengrund</i> 及び <i>C. jejuni</i> (Lior 18 Penner Z6 群株及び Lior UT Penner UT 株)、1 検体から <i>C. jejuni</i> (Lior UT Penner F 群株及び Lior UT Penner UT 株)を検出。
5月	旅館	24/67	Norovirus G I 不明 (5 月 16 日提供の料理)	36.1 時間、下痢、発熱、嘔吐 患者便 4 検体、従事者便 41 検体、食品 15 検体、スワブ 10 検体を検査。患者便 4 検体、従事者便 1 検体から Norovirus G I.3 を検出。
8月	保育所	21/73	ヒスタミン さばの味噌煮	0.1 時間、口の周りが赤く腫れる、腹部に発疹 食品 1 検体、スワブ 5 検体を検査。食品からヒスタミン産生菌 <i>Raoultella</i> 属菌及び <i>Photobacterium phosphoreum</i> を検出。 調理済みさばから 89mg/100g、原材料のさばから 93mg/100g のヒスタミンを検出。(生活科学部で実施)
11月	旅館	228/671	Norovirus G II 不明 (11 月 9 日提供の夕食～ 11 月 13 日の朝食)	37.3 時間、発熱、嘔吐、吐気、下痢 従事者便 16 検体、食品 7 検体、スワブ 7 検体を検査。従事者便 5 検体、スワブ 1 検体から Norovirus G II.4 を検出。

表 平成 27 年度の広島市における集団食中毒の概要及び病因物質 その 2

発生月	原因施設	患者/ 喫食者	病因物質 原因食品	潜伏時間及び主な症状 当部で行った検査
3月	飲食店	3/3	<i>Campylobacter jejuni</i> 不明 (3月5日提供の料理)	56.4 時間, 下痢, 発熱, 嘔気 患者菌株 1 株, 従事者便 5 検体, 食品 1 検体, スワブ 10 検体を検査。患者菌株 1 株から <i>C. jejuni</i> (Lior UT Penner 0 群株), 従事者便 2 検体から <i>C. jejuni</i> (Lior UT Penner 0 群株, Lior UT Penner UT 株), 食品 1 検体から <i>C. jejuni</i> (Lior UT Penner 0 群株)を検出。